

東京大学 大学院教育学研究科 教育学部 ^{案内}

Graduate School of Education Faculty of Education The University of Tokyo Guidebook

2025









教育学×教育人 新しい価値を創出する



contents

- 01. 研究科長・学部長あいさつ
- 02. 研究科・学部の紹介
- 04. 11の学びについて
- 06. 卒業生に訊く
- 07. 学部5コース

- 08. 教育学コース
- 09. 比較教育社会学コース
- 10. 教育実践・政策学コース
- 11. 教育心理学コース
- 12. 身体教育学コース



新しい価値を 創出する 教育学

教育学研究科長•教育学部長

勝野正章

研究科長・学部長あいさつ

東京大学教育学研究科・教育学部における 学びや研究の理念を表現する言葉に「インクルー シブな知性」があります。近代の学問は自然や 社会、そして人間を緻密に分析することで飛躍 的な発展を遂げてきました。そのような分析的 な知は、技術、経済、産業、福祉、医療など多方面に わたり大きな便益を人間にもたらしましたが、 その一方で、地球環境の破壊や、人間や社会の 恣意的な分類と序列化、さらには異なる価値観 や意見、生き方をする他者の排除を結果として もたらすこともありました。残念ながら教育学 も、分断・排除の知として機能した面がないとは 言えません。

「インクルーシブな知性」とは、知が持つこう した排除性を反省的に捉え直し、乗り越えよう とする、「結びあう知性」であると言えます。今日 ますます深刻の度を深めている社会の分断や 差別や排除への感受性と、それらの背景・原因 やメカニズムに関する深い理解は現代社会に おける必須の教養であると言えます。教育学 研究科・学部は、そのような教養としての「イン クルーシブな知性」の育成を共通基盤としな がら、教育の歴史・思想、人間の心と体の発達、 学習と発達を支える実践・援助、学習と教育の 社会システムなどへの多様な関心と進路希望 に応えることのできる専門的かつ学際的な研究 と教育を行い、多様性と包摂性が尊重される 共生社会の実現を目指しています。

私たちは、教育と教育学の新しい地平をとも に切り拓いてゆく仲間として、皆さんの教育学 研究科・学部への入進学を心から楽しみにして います。

- 13. 研究科10コース
- 14. 教育学コース
- 15. 比較教育社会学コース
- 16. 生涯学習基盤経営コース
- 17. 大学経営・政策コース
- 18. 教育心理学コース
- 19. 臨床心理学コース
- 20. 身体教育学コース
- 21. 教職開発コース
- 22. 教育内容開発コース
- 23. 学校開発政策コース
- 24. 関連施設紹介

教育学研究科 教育学部の沿革

東京大学教育学部は1949年5月、新制東京大学の 創設に伴い、旧制の文学部にあった「教育学科」 5講座を分離独立する形で発足しました。1947年 教育基本法、学校教育法が制定され、「6-3-3制」 の学校体系が発足し、全国に教育学部、学芸学部 が発足しました。従来の師範学校制度を改め、 国立大学に教育学部を設置することが望ましい という戦後教育改革の方針のもとに創設され ました。本学部はこうした改革の要請にこたえ ①教育に関する専門的研究を行い、併せて、 専門研究者や教職教育担当者の養成を行う、 ②教育に関する教養と識見を持つ教育行政官・ 社会教育指導者・学校管理者などの養成を行う、 ③新制東京大学における中等学校教員養成に責任 をもつ、という3つの課題を担って発足しました。 これら3つの課題は、大学院重点化が実現した 今日においても、基本的に変わっていません。 教育学部創設時は、小学科制をとって教育学科、 教育心理学科、学校教育学科、教育行政学科、 体育学科の5学科で出発しました。その後様々 な変遷を経て、現在は、右図にあるように、学部 は1学科3専修5コース、大学院は2専攻3専修 10コースで組織されています。

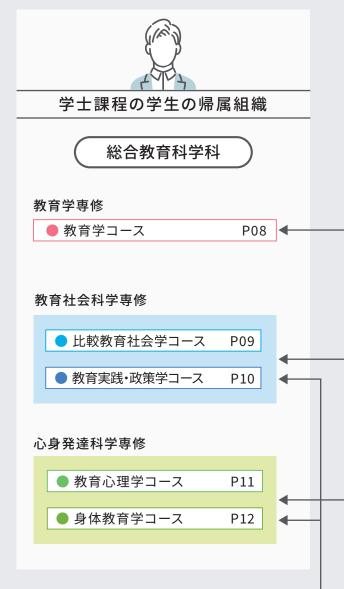
詳しくはこちら▶





組織について

教育学部



教育学研究科・教育学部の組織は、下図のようになっています(学部および大学院ともに2024年度以降)。 コースが細分化されていた時代もありましたが、それらのコースを教育学・教育社会科学・心身発達科学 という3専修へと区分し、現在では学部および大学院の教育はこれらの専修、および学校教育高度化 専攻を基礎的な単位として体系的に行われています。

詳しくはこちら▶



教育学研究科



11の学びについて

~コース代表者からのメッセージ~

詳しくはこちら





〈教育哲学〉

よりよい社会と人間の関係を見据えつつ、 思想と歴史に根ざして教育の核心に迫ります。

教育学コース

教育の現実問題を意識しながら、人間と社会・文化の関わりをその根幹から捉え ます。歴史学、哲学、人間学、臨床学等に拠りつつ、過去と現在、人間と文化、政治 と倫理、理論と実践、学術の知と制度の間を深く掘り下げる研究を行います。



本田 由紀 教授 〈教育社会学〉

社会学と比較教育学を駆使し、量的・ 質的データを用いて教育現象を研究します。

比較教育社会学コース

比較教育社会学コースは、教育社会学と比較教育学に基づき、広義の教育現象 に関する実証的・理論的研究に取り組んでいます。調査や分析の方法論の教育に 力を入れており、教育格差や国際教育など幅広いテーマを学ぶことができます。



影浦 峡 教授 〈図書館情報学〉

生涯にわたる学習とそれを可能にする基盤の 理論から実践までを追求します。

牛涯学習基盤経営コース

学校教育の後や外で人が営む活動を学習の観点から捉え、生涯にわたる学習活動と それを支える組織・制度・環境・技術などの基盤を研究するコースです。「これも学習 なのか!」「学習とはこういうことだったのか!」を学校の枠を超えて考えたい方へ。



北村 友人 教授 〈人文社会教育〉

教育、現場主義。教育という現象・作用の本質を 「現場」や「制度・政策」から捉えます。

教育実践・政策学コース

学校はもちろん、教育法や教育制度、博物館や図書館、さらには地域における市民の 学びなども含めた多様な教育の「現場」や「制度・政策」について、講義だけでなく演習、 実習などの授業を通じて、その対象に即した現実的なアプローチから迫っていきます。



両角 亜希子 _{教授} 〈大学経営論〉

大学の経営および高等教育政策について理論的・ 実践的な教育研究を行っています。

大学経営・政策コース

本コースは、大学・高等教育の管理者や政策担当者、この分野の研究者と将来のリーダー を育成するために、2005年に開設されました。学生の過半数が社会人であり、夜間および 土曜日の履修だけで学位が取得できるよう配慮しており、多様な学生が学んでいます。



清河 幸子 准教授 〈教授・学習心理学〉

心理学的手法と知見に基づく 教育の探究と実践に取り組みます。

教育心理学コース

心理学の手法と知見にもとづき、広い分野での応用・実践に取り組む研究者およ び実践者の育成を目指しています。教授・学習心理学、発達心理学、教育認知科 学、教育情報科学の4領域を専門とする教員が指導にあたっています。



高橋 美保 教授 〈臨床心理システム論〉

科学者-実践者モデルに基づいて、これからの 臨床心理学を牽引するリーダーを育成します。

臨床心理学コース

新たな時代を切り拓く臨床心理学の知の専門家を育成するために、自らの 文化を尊重するローカルな視点と同時に、多様性に拓かれたマインドセット を身につけた人材を育成することを目指します。



東郷 史治 教授 〈教育生理学〉

身体、心、脳の働きを解き明かします。

身体教育学コース

学校、家庭、社会に存在する身体、心、脳、教育に関わる様々な事象を対象に 基礎的研究や実践的研究を行い、例えば身体運動、睡眠、情動、発達などに関する 基礎的メカニズムの解明、さらには心身の健康問題や教育応用に取り組みます。



·柳 智紀 准教授 [いちやなぎ とものり] 〈授業研究〉

教育実践に学びながら、授業、カリキュラムおよび 教職専門性の開発を推進します。

教職開発コース

本コースでは、学校教育の高度化を達成する核ともいえる、授業、カリキュラム および教職専門性の開発を推進し、具体的な教育実践に基づきながら質の 高い学習環境の創出と教職の専門的資質や能力の高度化を目指します。



滕村 宣之 教授 [ふじむら のぶゆき] 〈数学・科学教育〉

これからの時代の各教科の授業や教科を越えた 学習について実証的に探究します。

教育内容開発コース

これからの時代の各教科の授業やカリキュラム、教科を越えた学習などをどの ように構築し実現するかについて、社会学、心理学、文学、言語学、比較研究等の 理論や方法論にもとづきながら、国内外のフィールドで実証的に研究しています。



村上 祐介 教授 〈教育政策研究〉

教育を動かすさまざまな「しくみ」を深く理解し、、 その在り方を考えます。

学校開発政策コース

学校教育の高度化を進めるうえで欠かせない教育行財政、法制度、経営、 政策などに関する研究開発を行っています。教育の実践や現場を支えるガバ ナンスの実態を解明し、その課題や改善の在り方を探究します。

卒業生 に訊く

あらゆる研究課題や興味に 全力で応えてくれる学びの場

インタビュ-全文はこちら▶



東京大学教育学部では、どのような学びや経験が待っているのでしょうか。 その魅力を熟知しているのは卒業した先輩たちです。2017年に卒業した堀菜保子さんを 卒業生代表としてお招きし、勝野正章教育学部長が深くお伺いします。



勝野 正章 研究科長・

2017年教育実践・政策学コース卒業、NHK入局。「おはよう日本」キャスターの傍ら、人権に関する取材・番組制作に従事。2023年シンクタンク転職。2025年教育学研究科進学。 堀 菜保子さん

多様な価値に触れた 地方実習での学びは その後の人生の礎に

勝野 正章教授(以下、勝野) 卒業 生である堀さんに、東京大学教育 学部での学びについて、またお仕 事のことなどお伺いしたいと思い ます。まずは、教育学部を選んだ 理由をお話しください。

堀 菜保子さん(以下、堀) 母が 小学校の教員をしていたため、 教育が身近にあったことはひとつ 大きな理由です。私はずっと「優し い社会をつくる一助になりたい」 と思っていますが、その社会をつ くる上で礎になるのは教育だと、 母の姿を通して感じていました。 「優しい社会」の実現に少しでも 近づける学びがしたいと、教育学 部に進むことを決めました。

勝野 教育学部での学びで印象 に残っている授業はありますか。

堀 社会教育学演習の授業で長 野県飯田市に実習に行ったこと は、とても印象に残っています。 実習に参加したメンバーは出身 も経験も考え方も様々です。少人 数のグループに分かれて民宿に 泊まり地域の方もまじえて話した り、現地の高校生と交流したり、 異なる感じ方を言語化したこと は、自分の見えている世界を相対 化する大切な経験になりました。

増し続ける探究心を 胸に抱き大学院へ 共に学ぶ君へエール

勝野 堀さんは、教育学部卒業 後にアナウンサーとして入社した NHKで、障害やジェンダー、DV、 LGBTQ+など、人権に関する番組 づくりにも携われましたね。その 後、転職したシンクタンクでも、 「優しい社会づくり」につながる調 査研究に従事されています。そし て、来年度から大学院で研究を始 められますが、具体的にどのよう な研究計画をお持ちですか?

堀 様々な人権の課題に対して、 マジョリティ層の中で自分事として 不公正を正そうと活動している 人たちは、どのような学びからそう

した意識や行動がつくられてきた のかを研究したいと思っています。 勝野 なるほど。 最後に、教育学 部または大学院教育学研究科を 志望しているみなさんに、メッ セージをお願いします。

堀 ここには、どんな研究課題や 関心にも応えてくださる環境が あります。教育学を学ぶことで、 「だから自分はこういう考えな んだ、こう思っているんだ」という 発見があるはずです。それを一人 ひとりが認識することが、社会に ついて深く考えることにつながる と思っています。私もまだまだ 知らないことばかりです。これか らも学びたいと思っているので、 教育のこと、つまりは社会の成り 立ちについて、みなさんと一緒に 考えていきたいと思います。



教育学部

P12

● 教育学コース P08 比較教育社会学コース P09 教育実践・政策学コース P10 教育心理学コース P11

身体教育学コース



教育学部は、総合教育科学専攻のもと に教育学専修、教育社会科学専修、心身発達 科学専修という3専修が置かれ、さらに教育 学専修のもとに教育学コース、教育社会科学 専修のもとに比較教育社会学コース、教育 実践・政策学コース、心身発達科学専修の もとに教育心理学コース、身体教育学コース という形で5コースに分かれて編成されて います。

それぞれのコースが、人文科学、社会学、心理学、 生理学といった多様な分野に基づきつつ、主 に学校を中心としつつも、保育園、博物館、 図書館、NPO、医療施設など多様なフィールドを も対象とし、特色ある教育を行っています。

教育学コース

(旧:基礎教育学コース)

教育学コースは、教育研究の最も基礎的な部分を担当するコースです。「教育とは何か」「よい 教育とは何か」「よき人・よき市民になるとはどういうことか」といった教育の最も根本的な 問いに、哲学・歴史学・人間学・臨床哲学という四つの(広く「人文学的」と呼ばれる)方法で アプローチします。教育や人間のことをじっくり考えてみたい学生にうってつけのコースです。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

基礎教育学概論(全コース教員)

西洋教育史概説 (隠岐 さや香)

教育哲学概説(山名淳)

教育人間学概説(小玉 重夫)

日本教育史概説(小国喜弘)

教育臨床学概説(大塚類)

文化と教育の哲学(山名 淳)

日本教育史演習(小国喜弘)

価値と教育 I (片山 勝茂)

教育の臨床現象学(大塚類)

文系と理系の歴史(隠岐 さや香)

教育倫理学演習(平石 晃樹)

道徳と教育[基礎教育学特殊講義](平石 晃樹)

■スタッフ紹介



山名 淳 [やまな じゅん] 教授(教育哲学)



小国 喜弘 [こくに よしひろ] 教授(教育史)



隠岐 さや香 [おき さやか] 教授(西洋教育史)



大塚 類 [おおつか るい] 教授(教育臨床学)



片山 勝茂 准教授(教育人間学)



平石 晃樹 准教授(教育哲学)

■ 卒業論文のテーマ [近年の論文題目―覧

- ●〈脆い人〉が経験する社会的不利益の検討 一障害の社会モデルへの批判を手がかりに一
- ●「コト」的世界観の教育論
 - 「エージェンシャル・リアリズム」と「有機体の哲学」に注目して-
- フランシス・ベーコン知識伝達論の教育思想史的意義
- スウェーデンにおける民主主義とシティズンシップ教育
- 都立光明養護学校における介助についての歴史的研究

■卒業生からのメッセージ

大学時代に経験した教育支援のボランティアで、教え子 から「勉強は意味がない」と言われ、自分の価値観を問い 直したくなったのが本コースを選んだ理由でした。常識を 問い直すこと、わからなさを楽しむことを基本的な姿勢と して学ぶ中で、自分の思い込みに気づき、「異なる他者と 生きることは難しいけど、面白い」と信じられるように なりました。その信念は、今の私が生きるうえで大切な 礎になっていると感じます。

内山 幸奈さん | 2020(令和2)年度学部卒業 [うちやま ゆきな] | 楽天グループ株式会社

比較教育社会学コース



比較教育社会学コースでは、社会学を中心とする社会科学の理論と方法に基づいて、「社会現象、 文化現象としての教育」を、多角的な視点から総合的に考察できる学生の育成を目指してい ます。必修の「教育社会学調査実習」は、テーマの設定からデータの収集、コンピュータによる分析 まで、社会調査の全過程を実際に体験することができます。例年、五月祭では、その調査結果の 発表が行なわれています。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

教育社会学概論(中村 高康)

高等教育概論(多喜弘文)

比較教育学概論(額賀・北村・荻巣)

教育社会学調査実習 I(仁平·多喜·寺澤·西村)

教育社会学調査実習 Ⅱ(仁平・多喜・寺澤・西村)

教育社会学調査実習 Ⅲ (仁平・多喜・寺澤・西村)

教育社会学調査実習 IV (仁平·多喜·寺澤·西村)

比較教育社会学論文指導(全教員)

比較教育社会学研究指導(全教員)

日本社会の変容と課題(本田 由紀)

教育社会学理論演習(本田由紀)

フィールドワークの理論と実践(額賀美紗子)

比較社会学の方法(多喜 弘文)

国際教育開発論(荻巣 崇世)

教育の計量社会科学(卯月 由佳)

教育調査分析法(藤原翔)

学校はデータでどう描けるか(山下絢)

生徒指導・進路指導(山本 宏樹)

教育と社会(中村知世)

進路指導・生徒指導(鈴木雅博)

家族と親密な関係の社会学(本多 真降)

■ スタッフ紹介



本田 由紀 教授(教育社会学)



中村 高康 教授(比較教育システム論)



仁平 典宏 「にへい のりひろ 教授(教育社会学)



額賀 美紗子 教授(比較教育学)



多喜 弘文 准教授(高等教育論)



准教授(比較教育学)

■卒業論文のテーマ [近年の論文題目―覧

- 学生文化の経時的変化に関する計量的研究 一学生の「まじめ化」現象の批判的検討一
- ●東大インカレサークルで何が起こっているのか ―「東大女子お断り」が守る格差構造―
- ●「理想的な」教師に求められる資質・態度の国際的共通性 一日本・アメリカ・スウェーデン・アラブ首長国連邦の教師への調査を通して一
- 首都圏における高校進学の様相 - 中学校と進学塾の進路指導を対比して-
- How do Women in Tokyo Perceive Safety in Urban Spaces? -The Impact of Urban Development Projects-

■卒業生からのメッセージ

大学を離れた今も、社会に対して柔軟な視座を持ちたい と思えるのは、「比教社」のおかげです。3年次には教育社 会学概論や調査実習といった名物授業で学びを深め、 4年次の卒業論文執筆の際には学外へ飛び出し、インタ ビュー調査などを行いました。生のデータを基に社会で の文脈を模索した経験は難しくも、楽しかったです。先生 方の温かいご指導や、同期や先輩・後輩と日々交わした 熱い議論が、視野を広げてくれた2年間でした。

勅使河原 美紗さん

2019 (令和元) 年度比較教育社会学コース卒。金融 機関を退職後、現在は翻訳業を専門としています。

教育実践・政策学コース



本コースは、学校だけでなく、教育法や教育制度、博物館や図書館、さらには地域における 市民の学びなど多様な「現場」と「制度・政策」との関係を通じて教育を捉えていきます。 教育行財政学、学校教育学、社会教育学、図書館情報学分野の4分野で構成されており、 それらの基礎的な知識を学びつつ、見学や調査も日常的に行っていきます。また、学芸員や 司書、社会教育士などの資格科目も提供しています。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

◎概論

社会教育論 I (李正連) 社会教育論Ⅱ(上田 孝典) 図書館情報学概論(河村俊太郎)

教職論(浅井幸子)

教育方法論(藤江康彦)

教育課程論(上野正道) 比較教育学概論(北村 友人)

学校教育学概論(北村 友人、藤江 康彦、浅井 幸子) 教育行財政学(勝野正章、村上祐介、橋野晶寛)

◎基礎演習

社会教育学演習Ⅱ(大高 研道)/教育行政•学校経営演習Ⅰ(村上 祐介)/ 教育方法学演習Ⅳ(藤江 康彦、浅井 幸子)/情報・資料分析論演習(宮田 玲)/ 教育研究調査法演習(影浦 峡)

◎演習

教育行政調査演習 I、II(勝野 正章、村上 祐介、橋野 晶寛) 教育行政•学校経営演習Ⅱ(橋野 晶寛)/ 教育方法学演習Ⅲ(藤江 康彦、浅井 幸子) 社会教育学演習Ⅰ(新藤 浩伸)/社会教育学演習Ⅲ(李 正連) 博物館学特別研究(新藤 浩伸)/教育と言語処理(宮田 玲)/情報サービス演習(齋藤 泰則)

講義をきく技術:MIT Linear Algebra (線形代数) MOOCS講義を通して (影浦 峡)

■スタッフ紹介



李 正連 教授(社会教育学)



新藤 浩伸 准教授(生涯学習論)



影浦峡 教授(図書館情報学)



河村 俊太郎 准教授(図書館情報学)



宮田 玲 [みやた わい] 講師(図書館情報学)



勝野 正章 教授(教育行政学)



村上 祐介 教授(教育行政学)



橋野 晶寛 准教授(教育行政学)



髙橋 和子 教授(言語教育)



北村 友人 教授(人文社会教育)



藤江 康彦



浅井 幸子 あさい さちこ 教授(カリキュラム研究) 教授(カリキュラム研究)

■ 卒業生からのメッセージ

点字を使用した学び、音楽を通した国際交流から比較教育 学を志した私にとって、本コースは憧れの場所でした。所属 した北村友人研究室では、自身の関心と経験を学術的に結 び、掘り下げる喜びを教わりました。また分野を超え、研究 を深める手助けをしてくださった多くの方々に感謝しており ます。この経験は今も、私が大切に取り組む社会活動の礎と なっています。皆さんがここでの学びを楽しみ、自らの力を 存分に発揮する未来へと羽ばたけますように。

菅田 利佳さん | 2022 (令和4)年度、学部卒業。外資系金融機関勤務 の傍ら、ピアニストとして様々な社会的活動に励む。

■卒業論文のテーマ□近年の論文題目-覧

- ●戦後初等教育における構造学習の理論と実践 一沖山光と全国構造学習研究会の歴史一
- 貸与型・給付型奨学金が学生の収入・支出に与える影響 ―返還不安度に着目した計量分析―
- ●居場所支援を中心とするNPO法人の持続的経営 ―事例比較に基づく持続化モデルの検討―
- ●「現代文」の教科書が有する特徴の分析 一「現代の国語」と「論理国語」の比較を通して一
- 外部団体からみる学校と協働した芸術鑑賞・体験授業 -NPOと文化センターへのインタビューから-

教育心理学コース



心理学の手法と知見にもとづき、広い分野での応用・実践に取り組む研究者、心理技術者の 養成を目指しています。大学院教育心理学コース、臨床心理学コース、教職開発コース、教育内 容開発コースの教員が共同で教育にあたっており、教授・学習、発達、臨床、認知科学、情報科学 と、人間理解の広い領域にわたる心理学の知識を身につけることが可能です。

■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

教授·学習心理学概論[教育·学校心理学](藤村宣之)

発達心理学(針生 悦子)

教育心理学実験演習 I (全コース教員)

教育心理学実験演習 Ⅱ [心理学実験](全コース教員)

教育心理学実験演習Ⅲ[心理学実験](全コース教員)

教育心理学研究指導(全コース教員)

質的心理学研究法Ⅱ(能智正博)

生涯発達心理学演習(遠藤利彦)

教授•学習心理学演習 Ⅱ (一柳 智紀)

心理演習(中島由宇他)

心理実習(稲吉 怜美 他)

認知カウンセリング実践演習 I (植阪 友理)

心理学統計法Ⅲ(宇佐美慧)

社会性と感情の発達心理学[感情・人格心理学](遠藤 利彦)

認知カウンセリングの技法と応用 I(植阪 友理)

公認心理師の職責(能智 正博他)

教育心理 I (清河 幸子)

■スタッフ紹介



遠藤 利彦 教授(発達心理学)



藤村 宣之 教授(教授・学習心理学)



針生 悦子 教授(発達心理学)



岡田 謙介



准教授(教育情報科学) 准教授(教授•学習心理学) 准教授(教育情報科学)



清河 幸子





-柳智紀 准教授(教授•学習心理学)



植阪 友理 准教授(教育認知科学)



能智 正博 教授(臨床心理カリキュラム論)



高橋 美保



滝沢 龍



大瀧 玲子 教授(臨床心理システム論) 准教授(臨床心理カリキュラム論) 講師(発達臨床心理学)

■卒業論文のテーマ「近年の論文題目―覧

- ●生成AIが提示した解決方略の検討を通じた高校生の 概念的理解の深まり
- 幼少期のしつけ言葉が大学生の道徳違反の回避に与える 影響について
- ●精神疾患に関する知識と自己・他者受容の交互作用が 統合失調症へのステレオタイプに与える影響
- 協同問題解決における非貢献的な発話が問題解決過程 に及ぼす影響
- ICT端末による共同編集機能がグループワークに及ぼす影響

■ 卒業生からのメッセージ

教育心理学コースでは、人間の頭や心について広く深く 学ぶことができます。私は、親子関係やメンタルヘルスに 興味があり進学しましたが、卒業論文のテーマを決める 頃に学び方への関心が強まり、大きく方向転換しました。 4年次から継続的に小学校へ足を運び、現在は大学院で 低学力層の学びを支援するような研究を目指しています。 多様な領域に触れ、その中で見つけた自分の関心を深く 追究できる点が、本コースの魅力だと思います。

金森 なつきさん 2023 (令和5) 年度学部卒業生 2024 (令和6) 年度教育心理学コース修士課程1年

身体教育学コース

システム脳科学・学校保健 生活習慣・運動制御・ 睡眠・学校体育 赤ちゃん・ バイオメカニクス 思春期・青少年・ 計算論的神経科学 脳機能イメージング ·自発運動 身体性・筋骨格系 報酬系・ 自律神経系 健康情報論· 情動 保健室・高齢者 生理学・知覚

身体教育学コースは、1998 (平成10)年、我が国で初めて誕生した「身体の教育」を主眼とするコースです。身体、心、脳、教育に関わる多様な研究を行っており、文科と理科のどちらからでも進学が可能です。講義、演習、実験・実習はいずれも10~30名程度のものが主体で、学生自身のプレゼンテーションや参画を積極的に組み込んだ形式となっています。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

◎講義題目[授業科目](担当教員)

身体教育学概論 I [身体教育学概論] (山本義春·野崎 大地·森田 賢治) 身体教育学概論 II [身体教育学概論] (多賀 厳太郎·東郷 史治·西田 淳志) 身体教育学演習 I [身体教育学基礎演習] (野崎 大地·東郷 史治·林 拓志) 身体教育学演習 II [身体教育学基礎演習] (野崎 大地·東郷 史治·林 拓志) 身体教育学演習Ⅲ [身体教育学基礎演習] (野崎 大地·東郷 史治·林 拓志) 運動指導方法(夏季野外種目) [身体教育学基礎演習] (野崎 大地·東郷 史治) 身体教育方法論[心身発達科学演習] (上岡洋晴)

バイオダイナミクス[心身発達科学演習] (野崎 大地・森田 賢治)

教育の疫学入門[心身発達科学演習](東郷 史治・佐々木 司)

教育の生理学[心身発達科学演習](山本 義春・内匠 透)

心と脳の発達[心身発達科学演習] (多賀 厳太郎)

安全•安心教育[心身発達科学演習](東郷史治)

栄養学概論[心身発達科学特殊講義](武見ゆかり)

脳科学特論[心身発達科学特殊講義](森田 賢治・Arvind Kumar・加藤 郁佳)機能解剖学(人体の構造と機能及び疾病)[心身発達科学特殊講義](佐々木司)

身体教育学研究指導[身体教育学研究指導](全コース教員)

ダイバーシティ・インクルージョン概論 [心身発達科学特殊講義] (小国 喜弘・野崎 大地・熊谷 晋一郎・近藤 武夫・東郷 史治・額賀 美紗子・ 能智 正博・星加 良司・大塚 類・飯野 由里子)

心身の実践科学[教養学部前期課程総合科目]

保健体育科教育法(実践)A(青木 秀憲·上岡 洋晴)

保健体育科教育法(実践)B(青木秀憲)

■スタッフ紹介



山本 義春 [やまもとよしはる] 教授(教育生理学)



多賀 厳太郎
[たが げんたろう]
教授(発達脳科学)



野崎 大地 [のざき だいち] 教授(身体教育科学)



東郷 史治 [とうごう ふみはる] 教授(教育生理学)



森田 賢治 [もりた けんじ] 准教授(身体教育科学)

■ 卒業論文のテーマ [近年の論文題目―覧

- 就労者における抑うつ気分の週内変動とその関連要因 一潜在クラス分析による検討一
- ●走行動作における効率的な地面反力利用
- 空間距離がタイミング予測に与える影響
- 睡眠の質が青少年の学習能力に与える影響
- Model-Based/Model-Free 学習と個人属性の関連

■卒業生からのメッセージ

自分以外の世界に目を広げ課題を解決しようとするときに必要なものは「想像力」で、そしてそれは何かしらに没頭する経験で培われるのではないかと思います。想像力を持つ人が増えることでもっと世界は良くなるとも思います。経験豊富な先生方がいらっしゃり、充実した設備がある身体教育学コースは、身体に関わることは何でも、とことん追求できる環境です。きっと面白いです。当コースでの学びに没頭してみてはいかがでしょうか。

田中 平祐さん

2024 (令和6) 年度3月身体教育学コース卒業

教育学研究科



● 教育学コース	P14
● 比較教育社会学コース	P15
● 生涯学習基盤経営コース	P16
● 大学経営・政策コース	P17
● 教育心理学コース	P18
● 臨床心理学コース	P19
● 身体教育学コース	P20
● 教職開発コース	P21
● 教育内容開発コース	P22
● 学校開発政策コース	P23

教育学研究科は、2つの専攻からなります。 総合教育科学専攻は、教育にかかわる事象に ついて高度の探究能力を有する研究者を養成 するとともに、教育諸領域における高度の専門 家を養成することを目的とし、3専修7コース で組織されています。

学校教育高度化専攻は、相互に強い関わりを 持つ3コースで組織され、学校教育にかかわる 実践的研究者を養成するとともに、教育実践 および教育行政における高度の専門家を養成 することを目的としています。なお、本専攻に おいては、本学の他研究科に所属したままで 本専攻の課程を履修する「副専攻」制度を設け ています。

教育学コース

(旧:基礎教育学コース)

教育学コースは、教育の最も根本的な問いに、哲学・歴史学・人間学・臨床哲学という四つの 方法でアプローチします。各教員による演習と論文指導に加えて、コース全体の総合演習が あり、全ての教員、院生から研究へのアドバイスを受けられます。また、年1号、院生の編集により 研究室紀要を発刊し、東京大学学術機関リポジトリで公開しています。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

教育思想演習	[教育の公共性を問い直す]	(小玉 重夫)
教育人間学基本演習	[ケアの倫理と教育]	(片山 勝茂)
教育哲学演習	[集合的記憶と想起文化の理論を探求する]	(山名 淳)
日本教育史演習	[戦後教育史を再検討する]	(小国 喜弘)
高等教育・研究の歴史	[高等教育・研究の歴史を問う]	(隠岐 さや香)
臨床現象学演習	[教育実践から考える]	(大塚 類)
教育倫理学演習	[教育と真理の関係を問い直す]	(平石 晃樹)

■スタッフ紹介



山名 淳 [やまな じゅん] 教授(教育哲学)



小国 喜弘 [こくに よしひろ] 教授(教育史)



隠岐 さや香 [おき さやか] 教授(西洋教育史)



大塚 類 [おおつか るい] 教授(教育臨床学)



片山 勝茂 准教授(教育人間学)



平石 晃樹 准教授(教育哲学)

■修士論文のテーマ 「近年の論文題目-覧

- ●「居心地の悪さの教育学」序説 一批判的教育学とフェミニズム教育学の間で一
- アルトゥーロ・エスコバルの「自治=自律的デザイン」の教育論 ―「他者と共に思考する」ことの可能性―
- ジャック・ランシエールにおける〈教えること〉の再考 一詩的教育における政治的主体化の可能性一
- 障害者の自立生活における「闘い」の検討 一「かたつむりの会」の実践に着目して一
- 「交流」を通した共生保育の展開
 - -1970・80年代における障害児通園施設「ひまわり教室」に焦点を当てて-
- ジュディス・バトラーにおける<政治>と<倫理> -- <あやうさ Precariousness>概念に着目して-

■ 博士論文のテーマ 近年の論文題目一覧

- 1960年代の現代子どもセンターにおける 子ども研究の生成と展開
- ●「保守」と「革命」を結ぶハンナ・アレントの教育理論 一主義者教育批判への前哨一
- 自治活動の学校内化と教育課程化のプロセスをめぐる史的研究 一「生徒会」成立過程を中心に一
- ロールズ主義的市民教育論の構築

比較教育社会学コース



比較教育社会学コースでは、社会学を中心とする社会科学の理論と方法に基づいて、「社会現象、 文化現象としての教育」を、国際比較や異文化理解を含めた多角的な視点から、総合的に考察で きる学生の育成を目指しています。通常の授業や論文執筆に加え、在学中の海外留学や学会参加 などで多くの院生が視野を広げています。修了後は官公庁やシンクタンク、マスコミなど様々な業 界に就職しているほか、博士課程に進学し研究者を目指すものも多いです。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

現代日本社会における教育・仕事・家族(本田 由紀)

教育社会学の研究課題(本田 由紀)

教育社会学の諸概念(中村高康)

教育と選抜の諸問題(中村 高康)

市民社会・国家・教育(仁平 典宏)

教育言説の社会学(仁平 典宏)

質的方法論研究(額賀美紗子)

グローバリゼーションと教育(額賀美紗子)

教育と不平等の社会学 I (多喜 弘文)

教育と不平等の社会学 Ⅱ (多喜 弘文)

比較教育学の理論と方法(荻巣 崇世)

国際教育開発の研究課題(荻巣 崇世)

教育社会学方法論研究(藤原翔)

障害の社会理論を読む(星加 良司)

教育研究における量的調査設計(石田 賢示)

格差・不平等研究のための社会的埋め込み論(石田賢示)

教育社会学論文指導(本田/仁平/星加)

高等教育論論文指導(多喜弘文)

比較教育システム論論文指導(中村 高康)

比較教育学論文指導(額賀/荻巣)

計量教育社会学論文指導(三輪/石田/余田)

Ethnicity, Nationalism and Education (高橋 史子)

アジアと日本の家族とジェンダー(落合 恵美子)

■スタッフ紹介



本田 由紀 教授(教育社会学)



中村 高康 教授(比較教育システム論)



仁平 典宏 「にへい のりひろ 教授(教育社会学)



額賀 美紗子 教授(比較教育学)



多喜 弘文 准教授(高等教育論)



准教授(比較教育学)

■ 修十論文のテーマ [近年の論文題目-覧]

- 子どもの家事とジェンダーの計量社会学的研究 一料理や掃除のしかたを教える母親に着目して一
- ●「学校復帰」を目指す不登校支援の実践とジレンマ 一教育支援センターのエスノグラフィー
- 反貧困運動の同時代史
 - -社会運動の盛衰と動員モデルの再検討-
- 難民申請中のトルコ国籍クルド人生徒の進路形成 一定時制高校における学びの意義づけに着目して一
- ●地方進学校における進学指導と生徒の進路意識 一高校生調査の計量分析と卒業生へのインタビュー調査から一

■ 博士論文のテーマ [近年の論文題目―覧

- 学歴を通じた不平等生成メカニズムの解明
- ●日本の死刑制度賛否の規定要因に関する実証研究
- 高等学校「現代社会」の教育課程政策と教科書の変容過程 ―カリキュラム改革の振り子モデルの再検討―
- 子どもの生活時間と社会階層 ―その階層性と共通性―
- 大学教員の視点から捉え直す専門職養成課程の質保証 一医学教育の事例研究を通じた「再解釈モデル」の提案一

生涯学習基盤経営コース



本コースでは、学校教育の後・外で人が営む様々な活動を学習の視点から 捉え、生涯にわたり人が営む学習活動とそれを支える組織・制度・環境・技術 などの基盤について研究しています。主に社会教育や生涯学習の活動を扱う 社会教育学・生涯学習論研究室と、図書館や情報媒体等を扱う図書館情報学 研究室とからなり、両研究室が連携しつつ教育研究を進めています。







■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

◎基本研究

生涯学習論基本研究 I (牧野 篤)

図書館情報学研究方法論(影浦峡)

図書館情報学総合研究(影浦峡)



◎特殊研究

生涯学習論特殊研究 I (李正連)

生涯学習論特殊研究Ⅱ(新藤 浩伸)

プログラム評価論(安田 節之)

持続可能な未来を拓く変革の学習・教育(二ノ宮リムさち)

図書館情報学理論研究(河村俊太郎)

情報媒体構造論(宮田玲)

学術コミュニケーション論(池内 有為)

計量書誌学・科学計量学(西澤正已)

◎論文指導

生涯学習論論文指導(李正連、新藤浩伸)

図書館情報学論文指導(影浦峡、河村俊太郎、宮田玲、池内有為)

■スタッフ紹介



李 正連 [い じょんよん] 教授(社会教育学)



新藤 浩伸 准教授(生涯学習論)



影浦峡 [かげうら きょう] 教授(図書館情報学)



河村 俊太郎 准教授(図書館情報学)



宮田 玲 講師(図書館情報学)

■ 修士論文のテーマ 近年の論文題目一覧

- ●日本で就職した中国人元留学生の転職に関する一考察 - 転職の要因とプロセスに着目して-
- 科学系博物館の展示解説の計量的分析 -国立科学博物館「地球環境の変動と生物の進化 恐竜の謎を探る」 の展示と『小学館の図鑑NEO [新版] 恐竜』の解説文を比較して-
- ●利用者ニーズの変遷からみた大学図書館における学習空間 -東京大学総合図書館別館ライブラリープラザを事例として-
- ●「大人リーナ」の語りを通じた「大人バレエ」研究 ─D.ジョーンズおよびR. ステビンスの論を援用して─
- ■異なる翻訳間の差異の記述に向けた研究 -メタ言語の洗練と翻訳文書対の自動分割技術の開発-
- ●地域課題解決への住民参加と学習
- 東京都板橋区の住民活動を事例として

■ 博士論文のテーマ 近年の論文題目―覧

- ●台湾「社区大学」の展開と特質 -市民受講者の実態調査から-
- Research on Japanese Typefaces and Typeface Customization System Designed for Readers with Developmental Dyslexia
- ●スウェーデンのSocial Pedagogyと専門職に関する研究 教育福祉論の視点から-
- ●大学の属性を考慮した大学図書館蔵書の特徴の分析: 所蔵図書の数量と属性に着目して
- ●1970年代以降の自治体教育改革における地域文化の組織化 過程に関する研究一鹿児島県奄美群島に注目して一
- ●メタ言語を活用する翻訳演習の構成と実証 一起点文書属性体系とイシュー分類体系を対象に一

大学経営・政策コース



大学経営・政策に関わる先端的かつ実践的な教育と研究を推進しています。大学・高等教育 機関の管理者、政策担当者、職員、学卒者を対象に、大学の経営、高等教育政策について理論的・ 実践的な教育を行い、大学・高等教育研究という新しい分野の研究者、将来のリーダーを育成する 大学院です。実務者・社会人の学習環境に配慮し、土曜日を中心に講義・演習を行っています。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

◎基礎科目

高等教育政策論(阿曽沼明裕)

高等教育論(阿曽沼明裕)

大学経営論(両角 亜希子)

比較大学論(福留東土)

大学経営政策演習(2)(阿曽沼明裕、福留東土、両角亜希子)

大学経営政策研究(阿曽沼明裕、福留東土、両角亜希子)



◎経営•政策各論

大学経営政策各論(1)(福留 東土、戸村 理)

大学経営政策各論(2)(阿曽沼 明裕、吉永 契一郎、米澤 彰純、溝上 慎一)

比較大学経営論(1)(福留 東土)

大学経営事例研究(2)(両角 亜希子、譚 君怡)

◎事例分析•実証分析

高等教育調査の方法と解析(1)(大多和 直樹)

高等教育調査の方法と解析(2)(未定)

◎研究指導

大学経営政策論文指導 (阿曽沼 明裕、福留 東土、両角 亜希子、米澤 彰純、溝上 慎一)

■スタッフ紹介



阿曽沼 明裕 教授(大学政策論)



福留 東十 教授(比較大学論)



面角 带希子 教授(大学経営論)

講義・演習の特別ゲストとして著名な研究者・学者 および文部科学省幹部職員を迎えて、実践面での 教育にも力を入れています。

■修士論文のテーマ 近年の論文題目一覧

- ●若手研究者の「自由な発想に基づく研究」の現状とその背景 ーインタビュー調査から一
- ●国立大学一法人複数大学制度の形成と導入プロセス 東海国立大学機構と奈良国立大学機構を事例として
- ●日本における女子大学の成立過程
 - 一新制大学創設前後の津田塾大学に着目して一
- ●入学者選抜になぜ多様性が求められているのか ―私立大学における実態とその背景―
- ●大学におけるシェアドリーダーシップに関する研究 一芝浦工業大学の国際化推進を題材に一

■ 博士論文のテーマ [近年の論文題目―覧

- ●日本における大学の公共性
 - ー概念整理から実証的研究へー
- ●大学の境界組織としての大学出資会社に関する研究
- ●東アジアにおける大学を拠点とする国境を越えた学生移動 -韓国の大学の『プログラム留学』を切口として一
- ●日本の大学草創期における学術普及活動
- ●韓国の大学における外国人留学生受入
 - 一量的拡大と質向上の両立に向けて一

教育心理学コース



所属教員の専門分野は、教授・学習心理学、発達心理学、教育認知科学、教育情報科学の 4領域にわたっています。教授・学習心理学では学習とそれを支える指導を、発達心理学で は感情や認知の発達を、教育認知科学では現実場面における学習や認知活動を、教育情 報科学では学習をはじめとした人間のふるまいの測定・解析方法を扱います。これら幅広い 視野と専門的手法を備えた研究者の育成を目指しています。

■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

教授・学習過程の心理学 [(清河 幸子)

感情と進化・文化(遠藤 利彦)

ことばと認知の発達 I (針生 悦子)

心理統計学演習(岡田謙介)

心理統計学特論(岡田謙介)

査読者の視点でみる心理学論文(植阪 友理)

教授・学習過程の心理学Ⅱ(清河 幸子)

関係性と子どもの社会情緒的発達(遠藤 利彦)

ことばと認知の発達Ⅱ(針生 悦子)

量的研究法(宇佐美慧)

心理統計学の近年の展開(宇佐美慧)

講演者の視点でみる心理学論文(植阪 友理)

教育心理学論文指導(全コース教員)

■スタッフ紹介



教授(発達心理学)



針生 悦子 教授(発達心理学)



岡田 謙介 准教授(教育情報科学)准教授(教授•学習心理学)准教授(教育情報科学)准教授(教育認知科学)







植阪 友理

■ 修士論文のテーマ 近年の論文題目―覧

- 課題の一部への着手の促しが先延ばしに及ぼす効果
- A Diagnostic Classification Model for **Matching Format Tests**
- 第二言語環境におかれた幼児の意味ネットワークの発達
- 保育者が捉える子どもの「主体性」 一心理学的観点からの考察ー
- 身体性を伴うイマジネーションは 社会問題の認識にいかに貢献するか

■ 博士論文のテーマ 近年の論文題目一覧

- Instructing Deep Notetaking to Enhance Student's Learning: Exploration, Demonstration, and Application of Effective Notetaking From the Perspective of Cognitive Psychology (学びの向上のための深いノートテイ キングの指導:認知心理学から見た効果的なノートテイキングの探索、実証と応用)
- Beyond the Nuclear Family: Matrilineal Mosuo's Allomothering System and Child Social-Emotional Development (核家族を超えて:母系モソ人 のアロマザリングシステムと子どもの社会情動的発達)
- ●自閉スペクトラムと共起する性別違和と広範な社会違和の質的検討 ―当事者視点を受容する研究・実践を目指して―
- ●幼児期における発話からの感情判断の発達
- ●数学の授業における教科書活用が学習者の学習方略と学習成績に及ぼす影響 授業と家庭学習を繋ぐツールとしての教科書の役割に着目して一

臨床心理学コース



臨床心理学コースは、様々な心理・行動上の諸問題を個人の発達や社会的文脈に位置づけつつ、 発達臨床心理学・臨床心理システム論・臨床心理カリキュラム論という教育研究分野の連携の もと、臨床心理学の実践の技法と実践に関わる研究の方法を学ぶ機会を提供します。カリキュ ラムは、公認心理師および臨床心理士の資格取得のための要件を満たしています。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

臨床心理基礎実習I(高橋·大瀧·稲吉) 臨床心理査定演習 [心理的アセスメントに関する理論と実践] (滝沢)

臨床心理基礎実習Ⅱ(高橋・能智)

臨床心理実習 I [心理実践実習] (高橋·大瀧·稲吉·日下·瀧井·林·中島)

臨床心理実習Ⅱ(高橋・大瀧・稲吉)

臨床心理学特論 [(能智)

臨床心理学特論Ⅱ(高橋)

臨床心理面接特論 I [心理支援に関する理論と実践] (高橋・日下・瀧井・林)

臨床心理面接特論Ⅱ(能智)

臨床心理査定演習Ⅱ(滝沢・高橋・大瀧)

臨床心理学研究法(能智・滝沢)

メンタルヘルスマネジメント基礎[福祉分野に関する理論と支援の展開](能智)

メンタルヘルスマネジメント応用[心の健康教育に関する理論と実践](林)

メンタルヘルスマネジメント応用 [教育分野に関する理論と支援の展開] (大瀧)

コミュニティアプローチ特論[家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践](大瀧・田中)

精神医学特論[保健医療分野に関する理論と支援の展開](滝沢)

■スタッフ紹介



能智 正博 教授(臨床心理カリキュラム論) 教授(臨床心理システム論) 准教授(臨床心理カリキュラム論) 専任講師(発達臨床心理学)





滝沢 龍



■修士論文のテーマ「近年の論文題目-覧

- ●小児期における家庭内外の逆境体験および保護的体験から形成 される生涯を通じたWell-beingへのリスクとレジリエンスの検討
- Impact of Autistic Traits on Social Functioning Through Mindfulness-Based Intervention: an App-Based Randomized Controlled Trial
- ■関係性からみる心理職の職業発達
 - 一同・他職種との関係性における困難を乗り越えるプロセスに着目して一
- 過剰適応的な大学生の精神的健康と援助要請との関連の検討 一友人への援助要請に着目して-
- ●集中内観における子どもから親へのゆるしに関する検討
- ■脳腫瘍罹患者の病いと人生の語り
 - 一わからなさとわかってもらえなさに着目して一

■ 博士論文のテーマ [近年の論文題目―覧

- ●メンタルヘルスと主観的なワークパフォーマンスの関係の解明 及び支援プログラムの開発
- ●自傷行為者の内的世界
 - 青年期にある体験者の語りの分析から-
- ●自閉スペクトラム症の描画表現に関する臨床心理学的研究 ―自己理解と他者関係への影響に着目して―
- ●女性バイセクシュアルの現状と心理支援 ―ライフストーリーと語り合いをもとに―
- ●発達障害児の親の「認知的怒り制御」に関する研究 -ICTによる感情制御支援に向けて-
- ●保護要因としての学校に関する研究
 - 一不適切な養育を受けた子どもに有効な学校の機能に着目して

身体教育学コース

システム脳科学・学校保健 思春期・青少年・ 身体性・筋骨格系 健康情報論 保健室・高齢者 生理学・知覚

身体教育学コースは「教育生理学」、「発達脳科学」、「健康教育学」、「身体教育科学」の4つ の研究分野から成り、密接な協力のもと、ヒトの身体、心、脳、教育に関わる様々な事象を 対象に実験・調査や解析を行っています。大学院生は、指導教員と密に議論しながら、また 他の教員から適宜アドバイスを受けながら、研究に取り組んでいます。



■講義題目

当コースのスタッフによる講義や演習には、次のようなものがあります。

◎講義題目[授業科目](担当教員)

身体教育科学の諸問題 [「身体教育科学基本研究] (野崎 大地)

身体システム論 I [教育生理学基本研究] (山本 義春・森田 賢治)

発達脳科学特論 I [発達脳科学基本研究] (多賀 厳太郎)

身体教育科学の諸問題 Ⅱ [身体教育科学特殊研究] (野崎 大地)

身体システム論 Ⅱ [教育生理学特殊研究] (山本 義春・森田 賢治)

発達脳科学特論 Ⅱ [発達脳科学特殊研究] (多賀 厳太郎)

予防科学で支える思春期のWell-Being [健康教育学特殊研究] (西田 淳志)

身体教育科学論文指導「身体教育科学論文指導」(野崎大地)

身体教育科学論文指導[身体教育科学論文指導](森田賢治)

教育生理学論文指導[教育生理学論文指導](山本義春)

教育生理学論文指導[教育生理学論文指導](東郷史治)

発達脳科学論文指導[発達脳科学論文指導](多賀厳太郎)

健康教育学論文指導[健康教育学論文指導](西田淳志)

■スタッフ紹介



山本 義春 [やまもと よしはる] 教授(教育生理学)



多賀 厳太郎 教授(発達脳科学)



野崎 大地 教授(身体教育科学)



東郷 史治 教授(教育生理学)



森田 腎治 准教授(身体教育科学)

■ 修士論文のテーマ 近年の論文題目-覧

- 拡散強調磁気共鳴画像を用いた前部島皮質と 側坐核を結ぶ白質線維束の個人特徴に関する研究
- 生成AIによる顔様画像を用いた ヒトの価値の学習に関する研究
- 発話時の舌運動に関する超音波画像解析
- Associations Between Communication Quality with Parents and Experiences of Bullying Victimization and Perpetration in Pre-Teens
- Validity and Test-Retest Reliability of Smartphone-Based Cognitive Assessment in Older Adults

■ 博士論文のテーマ 近年の論文題目-覧

- Motor Control and Adaptation in a Redundant Bimanual Motor Task
- The Developmental Origin of Agency
- Effect of Prediction on Learning and **Decision-Making**
- Effect of the Number of Confidants on Adolescent Mental Health
- Deep Multimodal Analysis for Daily Mental Health Monitoring

学校教育高度化専攻

教職開発コース



授業の開発、カリキュラムの開発および教職専門性の開発の先端的研究と実践的研究を推進し、 質の高い学習環境の創出と教職の専門的資質や能力の高度化を目指します。また、教師と協働 して学校教育の改革を遂行するとともに大学などの高等教育機関において教師教育(現職 教育を含む)を担う実践的研究者、幼児教育も含めた初等教育、中等教育段階の指導的教師 を養成します。



■講義題目

当コースにおける講義や演習には、次のようなものがあります。

教育実践の思想と理論(浅井幸子)

学習デザインの理論と方法(一柳智紀)

学校教育研究と談話分析(藤江 康彦)

カリキュラムの事例研究(浅井幸子)

授業の事例研究(一柳 智紀)

授業の実地研究(藤江 康彦)

授業研究論文指導(一柳智紀)

カリキュラム研究論文指導(藤江 康彦)

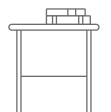
カリキュラム研究論文指導(浅井 幸子)

保育学研究(野澤祥子)

学習科学とテクノロジ(益川 弘如)

想像と創造のための場をつくる-アート教育と社会(塚田 美紀)

学校改革研究序説:アクション・リサーチの展望(鈴木 悠太)



■スタッフ紹介









- 柳 智紀 [いちやなぎ とものり] 准教授(授業研究)

■ 修士論文のテーマ 「近年の論文題目-覧

- ●スウェーデンの中学校教員による生徒の声に関する語りと実践 -政治的な参加と社会的な参加における声とその関係性に着目して-
- ●多様な参加が認められる学級の特徴
- -ある児童を中心とした授業内の他児童・教師のかかわりに着目して-
- ●中学校での協同学習場面において 生徒が用いる学習環境デザインのストラテジー 一文末表現「みたいな」による中途終了型発話の機能に着目して一
- ●オーストラリアのECEC政策における保育の質保証アプローチと 子どもの権利保障アプローチの関係性の検討
 - ーカリキュラムフレームワーク: EYLFの成立と改訂の過程に着目して一
- ●生徒による歴史事実に対する評価の形成過程
 - 一中学3年社会科の「自由民権運動」を主題とする単元を事例として一

■ 博士論文のテーマ 近年の論文題目一覧

- ●高校生の歴史授業の意味づけに関する研究 一ワーチの「媒介された行為」に基づく検討一
- ●大正期から昭和初期における裁縫教育改革の歴史的研究
- ●学校を中心とした教育の統合性を 「周縁部」の混在性から捉え直す
 - 一学校 地域間の連携活動を通じた包摂と教育の拡張に着目して一

学校教育高度化専攻

教育内容開発コース



学校教育の高度化を実現する教育内容の理論研究と開発研究を推進し、教科教育に関連 する実践的・基礎的研究を行う研究者や、各学校段階の指導的教師を養成します。各教科 の授業やカリキュラム、教科を越えた学習などをどのように構築し実現するかについて、社会 学、心理学、文学、言語学、比較研究などの理論や方法論にもとづきながら国内外のフィー ルドで実証的研究を進めています。



■講義題目

当コースにおける講義や演習には、次のようなものがあります。

数学的・科学的思考の発達と授業過程(藤村 宣之)

Education in the Era of Globalization: Asian Contexts (北村 友人)

言語教育と教材(髙橋 和子)

英語教授法(斎藤 兆史)

芸術教育の[隠れたカリキュラム](西島央)

言語教育の事例研究(髙橋 和子)

教科学習の事例研究(北村 友人)

教科学習の実地研究(藤村 宣之)

言語教育論文指導(髙橋和子)

人文社会教育論文指導(北村 友人)

教育内容開発論文指導(藤村宣之)

外国語教育論文指導(斎藤 兆史)

芸術教育論文指導(西島央)

国語科教育の理論と実践(濵田 秀行)

地球規模課題とESD(永田 佳之)

Research Methods in Education (荒木 啓史)

Global Education Policy (Wesley Teter)

教育制度の国際比較(小原優貴)

■スタッフ紹介



髙橋 和子 教授(言語教育)



藤村 官之 教授(数学・科学教育)



北村 友人 教授(人文社会教育)



■ 修士論文のテーマ 近年の論文題目一覧

- A Study of Whole-Person Foreign Language Education with Special Attention to New English Language Teaching Methods in China (全人的外国語教育の研究―中国の新たな英語教授法に着目して―)
- ●中学生の創造的思考力を高める国語科授業実践に関する心理学的研究
- ●カタカナ語が高校生の英語語彙学習に及ぼす影響
- The Role of Education in Shaping Coping Mechanisms of Elite Dalits Against Caste-Based Discrimination in Nepal (ネパールにおけるエリートダリットのカースト差別への対処メカニズムと教育の役割)
- ●国際バカロレア教育の実践が外国語科教師に与える影響 ―教師の葛藤に着目して―
- ●中学・高校生の「解析」に基づいた数学的問題解決過程に関する心理学的検討

■ 博士論文のテーマ [近年の論文題目-覧

- ●モンゴル国における幼児・学童期の教育と親の教育関与の関係
- ●日本の英語教育政策をめぐる政治力学 中央および地方における多元的政策過程の実証研究
- ●児童・生徒の数学的問題解決を方向づける文脈に関する研究 - 学習観、多様な考えの比較検討方法、教科の文脈に着目して-
- ●知的障害教育の場に転入した<グレーゾーン>の子どもの 学校経験に関する研究一教師との相互行為に着目して一
- ●他者と共に「物語」を読むという行為
 - 一「焦点化」に着目した教室談話分析-

学校教育高度化専攻

学校開発政策コース



学校開発政策コースでは、学校教育の高度化を推進する教育政策、教育行財政システム、学校 経営の理論的・実証的な研究を行うとともに、この領域の政策立案、行財政システム改革・経営・ 管理、政策評価等を遂行することのできる研究者と指導的な実務家・行政官(教育行政職員、学校 管理職・指導主事等)を養成することを目的としています。



■講義題目

当コースにおける講義や演習には、次のようなものがあります。

教育政策基礎論(村上 祐介•橋野 晶寬)

現代学校改革の諸問題 (勝野 正章・Sam Bamkin)

教育政策研究方法論 I (橋野 晶寛)

教育行政事例研究 I (村上 祐介)

教育行政実地研究(村上 祐介)

教育政策実地研究(橋野 晶寛)

学校経営実地研究(勝野正章)

学校経営研究論文指導(勝野正章)

教育行政研究論文指導(村上 祐介)

教育政策研究論文指導(橋野 晶寛)

比較教育政策研究論文指導(Sam Bamkin)

学校経営実践の開発 I (仲田 康一)

子どもの権利の諸問題(齋藤 宙治)

ジェンダーと家族の政策過程分析(辻由希)



■スタッフ紹介



勝野 正章 教授(学校教育経営)



村上祐介 教授(教育政策研究)



橋野 晶實 准教授(教育政策研究)

■修士論文のテーマ「近年の論文題目―覧

- ●人口減少時代の高校教育に関する研究 一統廃合と全国募集の観点から一
- 教職大学院教員の教師教育者としての役割認識 一教員間協働との関連に着目して一
- ●放課後児童クラブとの連携に対する教員の意識の違いと その原因に関する研究
- ●教育政策形成における文部科学省の自律性と機関哲学 - 「令和の日本型学校教育」策定過程の分析を通して-
- ●中学校特別支援学級に在籍する知的・発達障害生徒の 進路選択の決定プロセスに関する研究
- ●地方自治体における「幼保一元化」規定要因に関する研究

■ 博士論文のテーマ [近年の論文題目―覧

- ●国立大学法人運営費交付金の改革を巡る政策過程とその 帰結に関する研究
- ●イギリスのスクールビジネスリーダーの専門職化に関する研究 ~日本の学校事務職員制度を参照枠組みとして~
- 教育公務員特例法の制定過程と日教組の運動
- ●「最低限の義務教育」を保障する国家関与の研究 -米国ホームスクール制度の諸相と構想-
- Enactment of Moral Education in Japan: Between State Policy and School Practice

Facilities

関連施設紹介

教育学研究科・教育学部は、下記のような教育現場や先端研究拠点など 様々な関連施設を擁しており、教育研究などの面においてこれらと連携 をとっています。

教育学部附属中等教育学校

詳しくはこちら





「探究的な学び、協働的な学び」を通して 「豊かな市民性」を醸成する中高一貫校

教員養成と教育研究の高度化の拠点的役割をもち、 教育実習や授業観察・実地研究等のフィールド として学部生や大学院生を受け入れています。



心理教育相談室

詳しくはこちら





心理職や臨床心理学実践に基づく研究者を 目指す大学院生の実践的学びの場

臨床心理学の専門的な教育訓練を受けている 大学院生が教員の指導の下で、心理的問題を抱えた 子どもや成人を対象に相談支援を行っています。



バリアフリー教育開発研究センター

詳しくはこちら





バリアを打破し、インクルーシブ社会への 道筋を創造する教育研究拠点

社会の「バリア(障壁)」を可視化し、多様な人で構成 されるインクルーシブな学校・組織・社会の実現 を目指し、教育研究活動をしています。



星加 良司 教授 [ほしかりょうじ]

詳しくはこちら



学校教育高度化・効果検証センター(CASEER)



教育データを駆使した効果検証と、海外機関との 連携に基づくグローバル展開を推進

CASEERは2017年度に設置され、現在は効果検証部門と 教育高度化部門から成り、前者は探究学習などの効果 検証、後者は海外機関との連携に取り組んでいます。



石黒 千晶 准教授 [いしぐろちあき]

詳しくはこちら



海洋教育センター



海は伝えたい、人は学びたい、 その二つを未来に繋ぐ教育の研究拠点 地球環境と人間文化の繋がりに関心を寄せる国内 外の研究者や教育関係者等との連携を通じて、 「海と水」を主題とした教育の研究を行います。



発達保育実践政策学センター(CEDEP)







子どもの発達と保育・教育の実践・ 政策を研究・発信する共創型研究拠点

乳幼児期の保育・教育の実践や政策に関わる国内 外の研究者、実践者、国・自治体等と連携し、多数 の共同・共創型の研究を実施しています。



国際交流センター





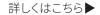


国際交流と留学生の支援を促進し、 研究科の教育・研究の国際化を支えます

学生および教員の国際交流活動の支援、海外からの 留学生や研究者が学術・研究活動に順調に取り 組めるように様々なサポートを行っています。



大学院教育学研究科·教育学部図書室







教育学を中心に関連分野の資料を 幅広く収集・提供する専門図書室

主に教育学・哲学・心理学・社会学・身体諸科学・ 図書館情報学等の分野の資料を所蔵し、学内外の 多くの方に利用されています。



教育研究創発機構

詳しくはこちら





新たな教育研究の誕生と発展を 促すためのインキュベーション組織

教育学研究科各研究センターのアンブレラ組織。 既存の学問分野にとらわれず時代の要請に応える 新しい研究や実践の創造を支援しています。



KYOSS(教育学部セイファースペース)

詳しくはこちら

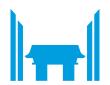




「みんなでゆるく」という理念で すべての人に開かれた場とコミュニティ

学生が運営するコミュニティでは、様々なイベントを 実施しています。赤門総合研究棟2階には、みんなが 安心できる場であるKYOSSラウンジがあります。





東京大学大学院教育学研究科·教育学部 広報·情報委員会

> 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 tel.03-5841-3904